

発達障害者支援 の情報共有を

答 「サポートノートえいぶる」
で情報共有している



浦崎 みゆき 議員

※記載内容は質問議員が要約し、広報委員会で編集しており、全文は議会事務局やHP、図書館で確認できます。

問 発達障害者支援法の改正で本町はどのように変わったか。

民生部長 市町村は早期発見にしっかり取り組むものとなっている。本町は以前から気になる子の早期発見の部分では健診の場を非常に重要視している。乳児健診や1歳半健診、2歳児健診、3歳児健診、この健診で少しでも気になる子は支援につなげている。また保護者の不安に応じて相談を受け付ける場として全て活用している。

問 支援体制はどうなっているか。

民生部長 ちむぐくる館やこども課、宮平保育所内ゆうな園、幼稚園の先生、役場の保健師など、あらゆる拠点で相談を受け付けている。

問 関係課での情報共有は行っているか。

保健福祉課長 県が発行している「サポートノートえいぶる」を活用し情報共有している。

問 学校教育の指導はどのように行われているのか。

教育部長 個別支援計画、指導計画を立て発達支援心理士を配置している。保護者に対しては研修会等も実施している。

「サポートノートえいぶる」とは・・・

主に発達障害のある方を対象とした本人のプロフィールや支援の経過が記載されたファイル。各ライフステージにおいてスムーズな情報の引き継ぎ、共有が得られ一貫したよりよいサポートが受けられる効果がある。

婚活事業の立ち上げを

問 沖縄の生涯未婚率は本年調査によると男性26・2%で全国トップである。本町においては3498人の未婚者がいる。理由として、適当な人にもまだ巡り会えていないと回答している。婚活事業の良いところは無料であり安心感があることである。事業の見解を問う。

町長 本町の課題解決や子育て支援が優先だと考え婚活支援事業は考えてない。

犬・猫殺処分ゼロをめざせ

問 犬・猫殺処分ゼロに対する見解を問う。

町長 犬・猫は古くから人間と共に生活してきた一番身近な動物である。大切な命を宿して動物の殺処分ゼロを目指すことは当然のことと考えている。



保護した犬は県動物愛護管理センターへつなげています。